

2024年3月期 第3四半期(FY2023 3Q) 決算概要

2024年2月5日

千代田化工建設株式会社

(証券コード: 6366)

AGENDA:

1. ハイライト
2. 損益計算書
3. 利益増減分析
4. バランスシート
5. 受注高・受注残高
6. 主なトピックス

【付表1】完成工事高・受注残高内訳

【付表2】業績推移

社会の“かなえたい”を共創する

エンジニアリング
Enriching Society through Engineering Value

Our SDGs Materiality

7

エネルギーをみんなに
そしてクリーンに



9

産業と技術革新の
基盤をつくろう



13

気候変動に
具体的な対策を



1. ハイライト

1

事業収益力の一段の向上

遂行中案件の進捗により、前年同期比、増収増益。過去10年間で最高益となった前期に続き、当期も事業収益を着実に積み上げ

2

業績予想の上方修正

完工案件でのリスク分担による採算の改善など、当四半期での一過性利益や、円安の効果により、期初の業績予想を引き上げ

3

事業ポートフォリオ革新の加速

水素バリューチェーン構築に向け、水素を製造する水電解システムの開発に着手。戦略的パートナーシップを通じ、社会価値を共創

2. 損益計算書

(単位: 億円)

	FY2022 3Q	FY2023 3Q	増減	FY2023 ^{*2} 上方修正 通期予想	進捗率	(参考) 修正前 通期予想
完成工事高	3,085	3,975	890	5,000	79%	4,500
完成工事総利益	235	286	51	360	79%	350
完成工事総利益率	7.6%	7.2%	△0.4pt	7.2%	—	7.8%
販売費・一般管理費	△99	△108	△9	△150	72%	△150
営業利益	136	178	42	210	85%	200
経常利益	156	236	80	280	84%	200
純利益 ^{*1}	125	157	32	180	87%	150
為替レート(円/米ドル)	133	142		145		140

*1 親会社株主に帰属する当期純利益

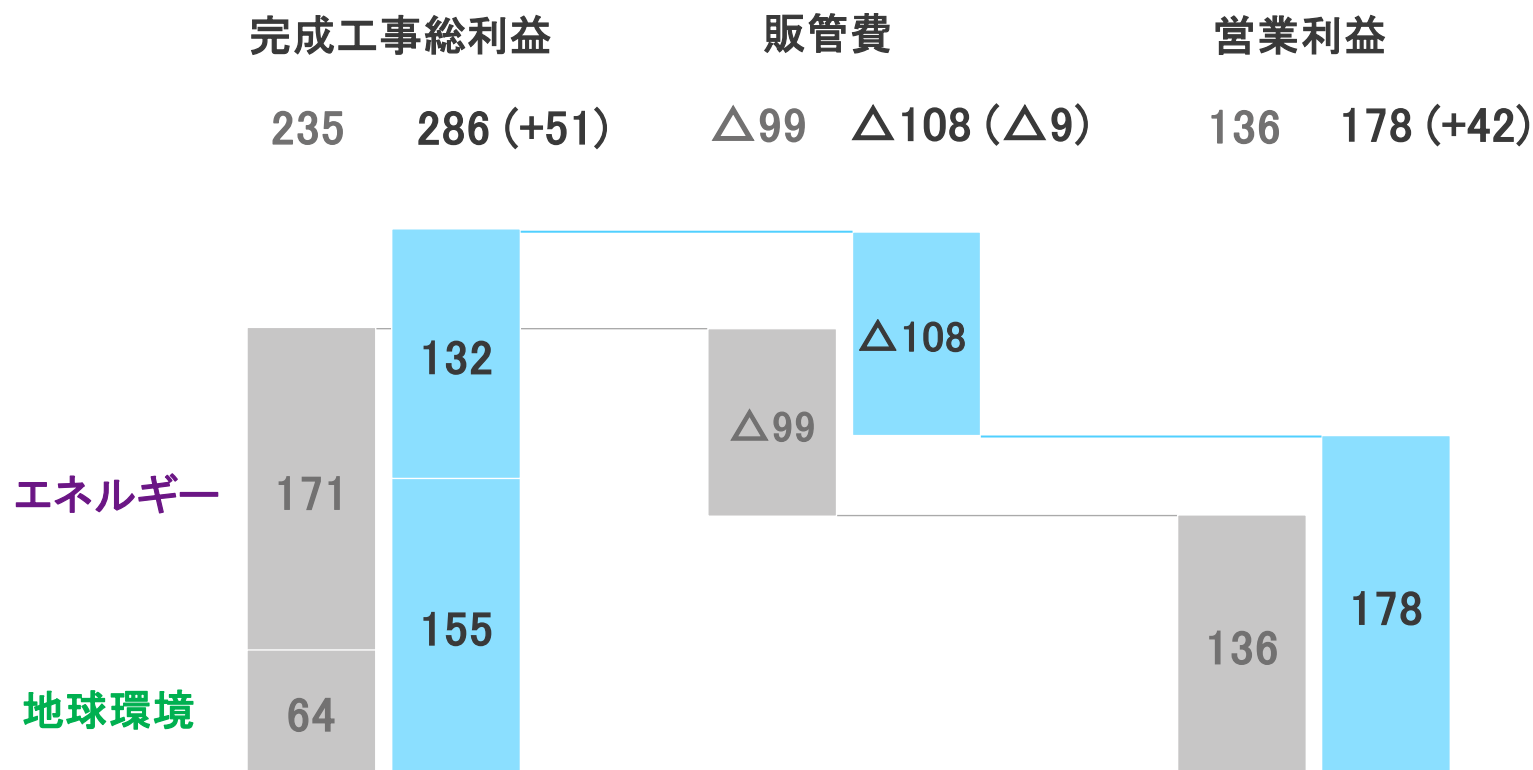
*2 2024年2月5日に上方修正

3. 利益増減分析

(単位: 億円)

FY2022 3Q

FY2023 3Q



()内: FY2022 3Q比増減

4. バランスシート

(単位: 億円)

	FY2022 4Q	FY2023 3Q	増減		FY2022 4Q	FY2023 3Q	増減
流動資産	3,830	3,592	△238	流動負債	3,563	3,422	△141
現金・預金等	612	1,006	394	営業負債*3	2,927	2,698	△229
営業資産*1	586	505	△81	工事損失引当金	279	238	△41
JV持分資産*2	1,616	1,204	△412	固定負債	280	80	△201
固定資産	236	233	△4	純資産	223	323	99
総資産	4,066	3,824	△242	負債・純資産	4,066	3,824	△242
				自己資本	222	313	91
				自己資本比率	5.5%	8.2%	+ 2.7pt

*1 営業資産＝受取手形・完成工事未収入金及び契約資産＋未成工事支出金

*2 JV持分資産＝ジョイントベンチャーにおける当社持分に相当する現預金

*3 営業負債＝支払手形・工事未払金＋契約負債（未成工事受入金）

5. 受注高・受注残高

(単位: 億円)

	FY2023 3Q 受注高	FY2023 3Q 受注残高
エネルギー分野	535	7,212
地球環境分野	1,202	2,684
合計	1,737	9,897

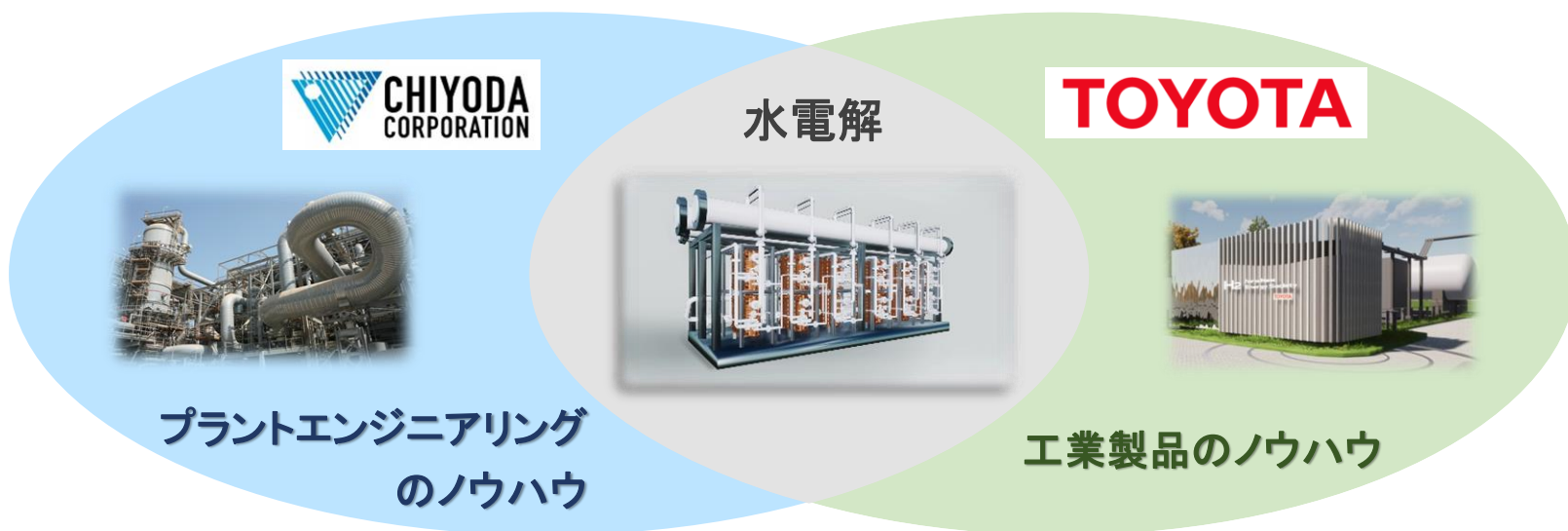
【受注残高主要案件】

	1,000億円以上	50億円以上
エネルギー分野	カタール・NFE LNG	米国ゴールデンパスLNG
地球環境分野	インドネシア銅製錬	CO ₂ メタネーション設備 バイオ医薬品原薬製造設備 先端素材生産設備

6. 主なトピックス – 1

トヨタ自動車(株)と水電解システムの共同開発に着手

- ✓ 大規模水電解システム*¹の共同開発および戦略的パートナーシップ構築に関して、協業基本合意書を締結。拡大する国内外の水素製造市場に対応する。*²
- ✓ カーボンニュートラルの実現に向けて、当社のプラント設計・建造技術と、トヨタの燃料電池技術を融合し、水電解装置導入の政府目標の達成に貢献。



*1 水を電気分解し水素を製造する仕組み

*2 両社は、東京ビッグサイト(東京都江東区)で開催される [H2&FC EXPO](#) (主催:RX Japan株式会社、開催期間:2024年2月28日~3月1日)に出展します。

6. 主なトピックス - 2

事業ポートフォリオ革新に向けて、脱炭素分野、ライフサイエンス分野を中心に、新規事業の取り組みが着実に進捗中。

◆ 二酸化炭素の液化・一時貯蔵・輸送の定量的な比較検討業務 [脱炭素分野]

- ✓ 日本郵船(株)、KNCC社*1とCCUS*2バリューチェーンを通じた経済性、実現性検証に関する共同検討を実施。
- ✓ エンジニアリング会社と海運会社の知見を融合し、CCUSの社会実装に貢献。



日本郵船



◆ 国内事業者向け 浮体式洋上風力発電所建設のFeasibility Study業務 [脱炭素分野]

- ✓ 仏テクニップ社との共同受注。
- ✓ 有望な再生可能エネルギー電源である浮体式洋上風力発電の早期の社会実装を目指す。



◆ AGC(株)向け国内バイオ医薬品原薬製造設備のEPC業務 [ライフサイエンス分野]

- ✓ バイオ医薬品CDMO*3の生産設備のEPC業務。海外への依存度が高いバイオ医薬品の国内での開発・製造能力向上に貢献。
- ✓ パンデミック発生時にはワクチン製造に切り替え可能なデュアルユース仕様で、人々の健康と安全に寄与。

[完成イメージ]



※AGC(株)が経済産業省の補助事業*4に採択され実施する事業

*1 Knutsen NYK Carbon Carriers AS。日本郵船(株)の関連会社。 *2 Carbon dioxide Capture, Utilization and Storage の略。

*3 Contract Development & Manufacturing Organization の略。医薬品等の製造受託に加え、製造方法の開発を受託・代行する会社。

*4 ワクチン生産体制強化のためのバイオ医薬品製造拠点等整備事業

【付表1】完成工事高・受注残高内訳

(単位: 億円)

FY2023 3Q 完成工事高

【分野】

エネルギー	2,205	55%
■ LNG・その他ガス関係	1,983	50%
■ 石油・石油化学	222	6%
地球環境	1,769	45%
■ 医薬・生化学・一般化学関係	221	6%
■ 環境・新エネルギー・インフラ他	1,548	39%
合計	3,975	100%

【地域】

海外	3,410	86%
■ 中近東・アフリカ	1,411	36%
■ 北中南米	360	9%
■ アジア・オセアニア	1,638	41%
■ その他海外	1	0%
■ 国内	564	14%
合計	3,975	100%

FY2023 3Q 受注残高

【分野】

エネルギー	7,212	73%
■ LNG・その他ガス関係	6,951	70%
■ 石油・石油化学	261	3%
地球環境	2,684	27%
■ 医薬・生化学・一般化学関係	960	10%
■ 環境・新エネルギー・インフラ他	1,724	17%
合計	9,897	100%

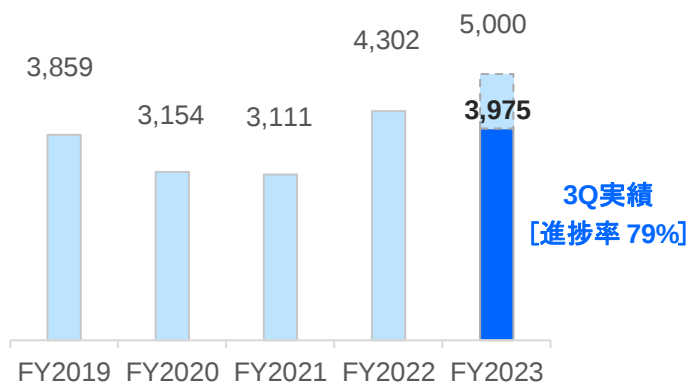
【地域】

海外	8,359	84%
■ 中近東・アフリカ	5,952	60%
■ 北中南米	741	7%
■ アジア・オセアニア	1,649	17%
■ その他海外	17	0%
■ 国内	1,538	16%
合計	9,897	100%

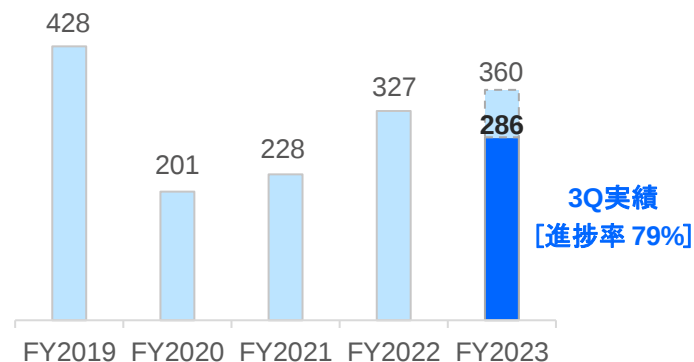
【付表2】業績推移

(単位: 億円)

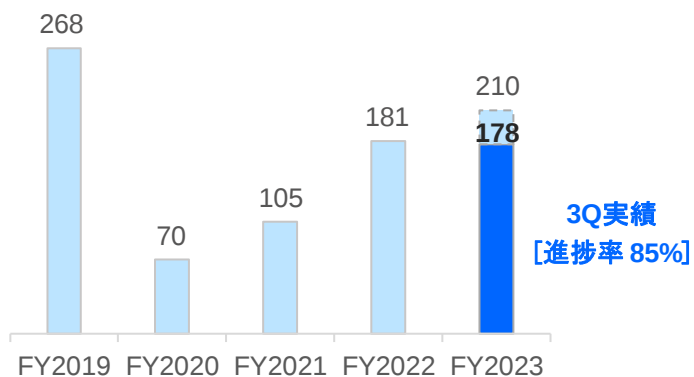
完成工事高



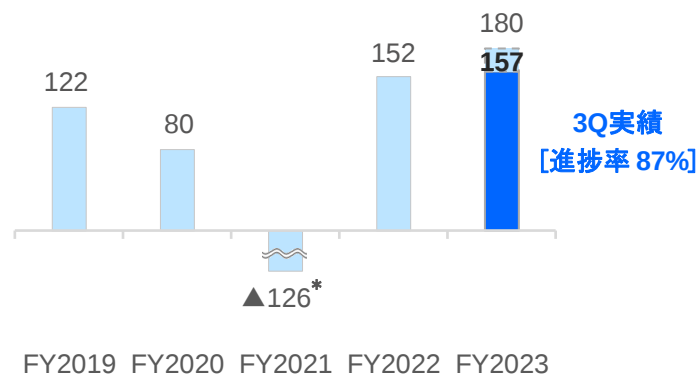
完成工事総利益



営業利益



純利益



* 特別損失 ▲204億円含む(顧客との和解等によるプロジェクト関連損失)

Enriching Society through Engineering Value



千代田化工建設株式会社 総務部IR・広報・サステナビリティ推進セクション <https://www.chiyodacorp.com/jp/>

この資料には、事業戦略・本資料発表時における将来に関する見通しおよび計画に基づく予測が含まれています。経済情勢の変動等に伴うリスクや不確定要因により、予測が実際の業績と異なる可能性があり、予想の達成、および 将来の業績を保証するものではありません。従いまして、この業績見通しのみに依拠して投資判断を下すことはお控えくださいますようお願いいたします。